



☆園小相互参観（こども園参観）☆

今年度の相互参観では、参観する際に視点をもって子どもたちの姿を捉えていただきたいと思い、参加者に「参観シート」を配布しました。「参観シート」では「幼児期の終わりまでに育ってほしい10の姿」の視点で「印象に残った子どもの姿や予測される子どもの学び」を考えると、という項目と、「指導者（教師・保育者）の指導や支援、配慮からの気づき」という項目について記入していただくことにしました。

今号では、小学校の夏休み期間を利用し、こども園の保育・教育を参観された、小学校の先生方の参観シートから、「印象に残った子どもの姿や予測される子どもの学び」を「10の姿」で分類したものをご紹介します。

（Copilotにより一部抜粋）

※信州幼児教育支援センター作成の
10の姿のピクトグラム引用



1 健康な心と体

- ・サーキット遊びでは、子ども全員が率先して準備を行い積極的に行動できていた。難しいことでも挑戦し続ける姿がすてきだった。
- ・感覚を大切に活動がなされており、子どもたちが夢中になって遊んでいる姿が印象的だった。口に入れても大丈夫な素材で、安全にも配慮されていた。



2 自立心

- ・自分がイメージするものを自分で考えて、進んで作る様子が見られた。活動の終わりに振り返りをして、次回の活動に生かすことで、自分の力でより良くしようと考えたり、諦めずにやり遂げたりすることができ、達成感を感じられる活動になったと思った。
- ・泥遊び、色水作り、石鹸で遊ぶ活動などたくさんの活動が用意されており、園児は自由に選択し活動することができている。



3 協同性

- ・両面テープを貼る子、はさみで切る子など、自然と役割分担をして協力して取り組む姿が見られた。
- ・ブルーシートを使い、みんなで協力して水を溜めて温泉ができあがり、驚いた。



4 道徳性・規範意識の芽生え

- ・自分の使いたい材料が少ししかない時は、友だちと協力して2人で1つの物を分け合って作っていた。
- ・一方的に指示を出すのではなく、「いろんな子と座れるといいよね」「ごみはどうしたらいいかな？」と問いかけながら子ども自身が考えられるよう促していた。



5 社会生活との関わり

- ・「小さい子たちに分かりやすいように」という意見が出ており、他者の視点になって考えられているのもすばらしいと思った。
- ・おうちの方に子どもの良いところを書いてもらったカードを、先生に読んでもらった。読んでもらっている子の表情がにこにこだった。その子の自信につながる、とてもすてきな取組だと感じた。



- ・長期間かけて大がかりな物を作る中で、「前はこうだった」「次はこうしたい」という思考が見られ、思考力の芽生えに寄与していると感じた。
- ・「トマトは沈むけれど、割れたトマトは浮く」という現象に気付き、「なぜ割れたトマトは水に浮くのかな」と問いを立てていた。科学的な視点で物事を捉える力が育まれている。



- ・昆虫の図鑑が飼育している昆虫のそばに置いてあった。内容は難しいかもしれないが、園児が興味をもって飼育できる環境が良かった。園児が自ら学びたくなる配慮だと感じた。



- ・ホワイトボードに活動の内容、準備、グループのメンバーなどが書かれていた。見通しをもたせる工夫がされていた。
- ・文字や絵を使いながら子どもたちと対話されて、ホワイトボードを見て、自分の気付きを話したり、思い出したりする子どもの姿があった。4歳児は「絵」だったが、5歳児は、「文字」へと変化していた。



- ・今日の活動の中で、言葉で伝えたり、相手の話を注意して聞いたりし、言葉による伝え合いを行っていた。相手の話を聞かないと次の活動にうまく接続できない活動を取り入れることで、聞く必要性が生まれ、子どもたちは相手の話をしっかりと聞くことができていた。
- ・絵本を読んでもらう時に、言葉を覚えたり、自由に話をしたりする姿が見られた。幼児期から語彙を増やすことを意識して活動されていると感じた。



- ・年長児クラスでは、園にある様々な材料を使って創作活動を行っていた。はさみやボンド、絵具などを使い、伸び伸びと楽しそうに表現している園児たちであった。
- ・制作活動で高い集中力を維持しており、途中で離席することもなく、自分のイメージを形にすることに没頭していた。色や形、配置に工夫を凝らしながら、時間いっぱい取り組む姿が見られた。

令和3年度からこども園への参観を始め、令和5年度からは「園小架け橋研修」を実施し、「10の姿」の理解と浸透を進めてきました。当初は、「10の姿」について馴染みがなく、「10の姿って何？」というところから始まりましたが、今回の参観では、制作をして遊んでいる姿から「役割分担をして協力して取り組む姿があり、協同性につながっている」など「10の姿」の視点で子どもの姿や学びを見付け、参観シートに記入されていました。

「10の姿」についての理解、浸透が進んできていることが伝わってきました。また、参観シートを「10の姿」で分類してみると、「10の姿」全てにまんべんなく記入されており、こども園の活動や遊びの中に、たくさんの学びがあることや、小学校へのつながりについても「10の姿」が「つなぎ」となることを具体的に感じていただけたように思いました。

次号では、「参観シート」の「指導者（教師・保育者）の指導や支援、配慮からの気付き」の項目についてお伝えします。

文責：西村